

## H20sakaビジョン推進会議 第14回会議 議事要旨

**日時**：令和5年3月24日（金）午後3時～午後5時

**場所**：大阪市環境局第1・第2会議室 +WEB

**出席者**：（会長）

（敬称略） 秋元圭吾（公益財団法人地球環境産業技術研究機構）

（構成団体）

（株）池田泉州銀行、エア・ウォーター(株)、一般財団法人大阪科学技術センター（OSTEC）、大阪ガス(株)、(株)大林組、(株)加地テック、川崎重工業(株)、関西エアポート(株)、関西電力(株)、鴻池運輸(株)、積水ハウス(株)、(株)竹中工務店、帝人エンジニアリング(株)、東芝エネルギーシステムズ(株)、日本製鉄(株)、日立造船(株)、丸紅(株)、三井化学(株)、三菱重工業(株)、(株)三菱UFJ銀行、(株)りそな銀行

（事業別研究会座長）

F C 船研究会座長、F C バス研究会座長

（オブザーバー）

近畿経済産業局、（公社）関西経済連合会、大阪公立大学、

（公社）2025年日本国際博覧会協会、（独法）日本貿易振興機構

（事務局）

大阪府商工労働部成長産業振興室産業創造課、

大阪市環境局環境施策部環境施策課、

堺市環境局カーボンニュートラル推進部環境エネルギー課

### 議事要旨

#### 議題1 「取組の現状について」

##### ■資料1に沿って説明

##### ◆FCバス研究会について

- 2月22日に研究会を開催。
- 昨年3月に府補助金を活用して導入されたFCバス運行事業者から、FCバス2台により得られる実車運行データ等を共有。
- 海外で運行されているFCリムジンバスの車両メーカーの日本代理店から、日本での販売に向けた動向について紹介。
- テレビ局関連会社から、マイクロバスを改造したFC中継車の取組みについて紹介。

##### ◆FC船研究会について

- 3月10日に研究会を開催。
- JAPAN SHIP CENTRE から、ノルウェーにおける海事分野の脱炭素化の取組みについて紹介。
- 海外のFC船開発エンジニアリング企業から、日本での運航に向けた動向について紹介。

##### ◆社会受容性の向上について

- 地域イベント等でFCVを活用し、水素の社会受容性の向上に取り組んでいる。事業者と連携し、イベント

を実施したほか、公用車として導入した FCV を環境教育事業に活用し、FCV の魅力を発信。市内のごみ焼却工場で、水素社会に適合した新たな廃棄物処理ネットワーク構築、メタネーションによる水素サプライチェーン構築を目指す実証に協力。（大阪市）

- ZEV 等の普及により環境先進都市の構築を図るため、在堺トヨタ各社と連携協定を締結。協定締結日には FCV を活用したイベントを実施。FCV 活用モデル創出プロジェクトとして、在堺トヨタ各社の所有する FCV を市内事業者に貸与し、業態に応じた効果的な活用方法や課題の検証を実施。また、4 月にはトヨタ自動車と協力し、FCトラックの試乗会を実施。テレビ番組で取組みを紹介。（堺市）

（質問 1）

FCバスの万博での利用計画予定の情報があれば教えてほしい。

（回答）

研究会として、FCバスやFCリムジンバスの万博での運行は聞いていない。

（質問 2）

アンモニアを燃料とする船に対する知見や状況がわかれば教えてほしい。

（回答）

アンモニアエンジン船に関しては、NEDO の事業で開発がされていると認識している。具体的にアンモニアエンジン船についての情報収集等はしていない。

（質問 3）

万博会場の水素を燃料にした船の航行にかかる規制関連の情報はるか。

（回答）

情報入手していない。

（意見）

万博に関して FC 船や水素燃料等の規制の進捗を本会議等で教えてほしい。

（回答）

承知した。

## 議題 2「水素関連プロジェクトの実現に向けて」

### ■資料 2 - 1 ~ 2 - 3 に沿って説明

【質疑応答】

#### ◆水素社会実現に向けた環境省の取組について【環境省】

（質問 1）

水素の内燃機関を活用した車両の開発ということだが、実用化に向けたロードマップではいつ頃を目指しているのか。

（回答）

現時点で、実証というステージなので、実用化の目途は未定。

（質問 2）

コースター（トヨタのマイクロバス）をベースにした燃料電池救急車は、どういったきっかけで開発が進められたのか。

（回答）

様々なニーズに合わせた燃料電池自動車の利用方法を増やすことをめざして、開発が進められたと聞いている。

◆カーボンニュートラル時代における水素政策の今後の方向性【資源エネルギー庁】

(補足)

家庭用燃料電池の補助金が復活した。多くの取組をして頂いていると認識しているが、より普及させていきたいと考えているため、協力をお願いしたい。

(意見)

現在、都市ガスは天然ガスだが、将来に向けては、水素、もしくはメタネーションによる合成メタンというのもあるかもしれない。そういうところに繋がる意味でも家庭用燃料電池の普及は大変重要ではないか。

◆高効率エネルギー利活用に向けた次世代型廃棄物処理システムの開発【日立造船株式会社】

(質問 1)

ガス化改質炉はごみの内容によって、温度がかなり変わるものなのか。

(回答)

温度だけではなく、発生ガス量も変わる。分別されていない廃棄物では変動するが、安定運転ができるようなシステムを構築し、自動制御等でコントロールしている。

(質問 2)

通常のストーカー炉の燃焼では水分の影響がかなりあるが、熱分解ガス化改質システムでは影響がないのか。

(回答)

水分の影響は小さい。今回はガス化するもので、燃やすという概念とは異なる。熱分解に必要な熱量という点では、水分よりは、プラスチックやバイオマスの割合の方が影響してくる。

(質問 3)

燃焼の灰分や炭素分といったものに別の処理装置をつける必要があるのか。

(回答)

灰分など不燃分の影響はあまりなく、そこまでの必要はないと考えている。

**議題 3「その他」**

◆EXPO 2025 グリーンビジョン 2023 年概要版（案）について

【公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会】

○資料 3 - 1 に沿って報告。

◆令和 5 年度 カーボンニュートラル技術開発・実証事業 費補助金 について【大阪府】

○資料 3 - 2 に沿って報告。

以 上